

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フェリクス曾根 (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 11日	～	2024年 12月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2024年 12月 16日	～	2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> TEACCHプログラムや、ABA(応用行動分析)の考え方に基づいて支援環境の構造化に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりに合わせた個別のスケジュールボードを用意し、イラストや文字で活動や予定の見通しが持てるようにしている。 タイマーや個別の時計を用い、活動の切り替えのタイミングを事前に子どもたちに伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の障がい特性や発達段階を考慮しながら、より良い支援の仕方を引き続き検討して取り組んでいく。 職員全体で統一した支援が行えるよう研修を重ね、意見やアイデアを出し合っていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動では、児童の感覚統合を目指して音楽療法(ミュージックケア)に取り組んでいる。 スヌーズレンを行う環境を整え、児童の興味の幅を広げたり、心身の安定を図ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音が苦手な児童や集団が苦手な児童には、曲の選定や参加の仕方に配慮して行っている。 児童が興味を示し、無理なく参加できるよう、児童の様子を丁寧に観察し、促しを行っている。 一人ひとりが安定した空間で過ごせるよう、個室は時間を決めて順番に交代で利用している。 子どもたちと手作りのグッズを作って、光や色の変化を楽しめるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な感覚を味わうことができる活動を増やしていく。 嗅覚、触覚にも心地よい刺激が得られるような道具を準備したり、光のバリエーションを増やしたりしながら、興味が広がるようにしていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 屋内外ともに、広めのスペースがあり、ボール運動や走る活動などに取り組める環境である。 	<ul style="list-style-type: none"> 療育の時間に、「走る時間」を設け、思いっきり走れる環境を設定している。 走る活動やボール運動時は、スペースをパーティションで仕切ったり、活動内容によって時間で交代したりしながら、安全に配慮して行っている。 ボールの素材、種類を活動ごとに使い分け、安全面に配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋外(庭)の環境整備を行いながら、季節を感じられる活動や、自然に触れる活動を企画していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 地域とのつながりが十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 開所初年度ということもあり、地域とのかかわる機会が十分に取れていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の情報収集を積極的に行い、子どもたちの活動につなげていける取り組みを検討していく。 地域の方とのかかわりを大切にしながら、つながりを広げていくよう努める。
2	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の情報発信が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> HPやSNS等を活用した情報発信が十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> HUG(成長療育支援システム)の導入により、保護者への情報発信をWEBで行えるようにしていく。 事業所の安全対策等に関する各種マニュアルについてはHPを活用して発信し、周知を図っていく。
3			